

# Passione

SAGEJAPAN

Annual Report

**【Member】**

**From**

**Bunkyo Gakuin**

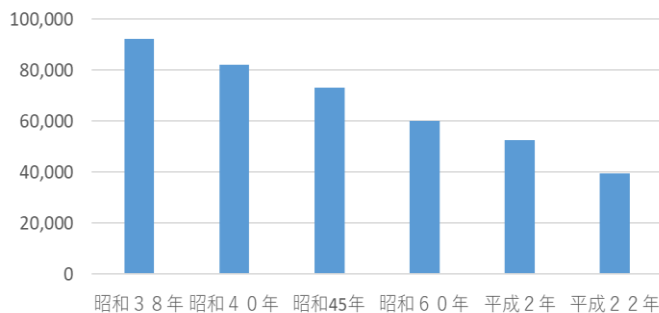
## 〈問題提起〉

地域創生、そしてその裏返しである地方の過疎化問題という言葉を目にする機会は多いものの、首都圏に住む私たちにとっては、実際の所、現実感を伴わない言葉だった。

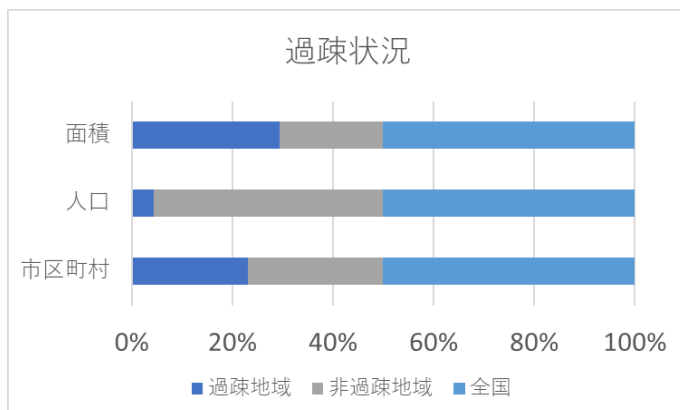
そんな私たちも昨年の夏に私たちの学校と AP (Atlantic Pacific: イギリスに本部のある団体) の共催による「海のリーダーシッププログラム」に参加し、釜石市の地域の方たちとの交流したことを通して、その実情を目の当たりにすることができた。

ここではまず、過疎化とは何かを整理したいと思う。人口の急激な減少により、地域住民の生活水準や生産機能が一定の水準を維持できなくなった状態を「過疎」と、その状態が進行していることを「過疎化」と言う。過疎化が進行している地域は、市町村数では全国の半数近く、面積でいえば国土全体の6割弱にのぼるといわれている。釜石市では、人口は昭和38年の頂点に減少し続け、平成17年国勢調査では、この半分以下に大幅に減少している。

釜石市の人口傾向



そして、過疎地域の面積は国土の6割弱を占め、過疎化している市町村数は46.4%である。また全人口の8.9%が、過疎地域に住んでいる。



これは、製鉄業の生産設備の相次ぐ合理化、29歳以下の若年層を中心に他地域に転出が大きな要因と考えられ、他の期間でも5~8パーセント台の大幅な減少率となっている。人口減少に合わせ少子高齢化も急激に進行し、昭和40年に20,350人だった若年者数が平成17年には4,706人に急激に減少するとともに、昭和35年に2,971人だった高齢者数は13,411人と大幅に増加している。

釜石市の人口構成はいわゆる団塊の世代が多く、かつ若年層の流出や価値観の多様化で、この高齢化及び少子化の傾向は今後も続く予想されている。こうした過疎化は、農林水産業をはじめとして地場企業、商店の後継者不足や高齢化による生産性の低下につながり、産業の成長を阻害する要因となっている。また、少子化は保育所や幼稚園、小中学校など子どもに関連する公共施設の効率的な利用や維持管理に支障をきたしている。

この他、過疎化は公共交通や医療、福祉、日常生活の利便性の確保、集落の維持活性化等市民生活に大きな影響を与え、地域社会の活力低下を招いている。また、2011年3月11日に起こった、東日本大震災の影響を受けた釜石市は、3万7200人中888人が死亡、158人が行方不明になった。家屋の崩壊の被害も重大で、2955棟が被害を受けた。

この影響を受け、さらに釜石市から人の流出が進んだ。ここで私たちが疑問に思ったことがある。それは釜石市の復興はかなり進んでおり、住めない環境ではないのに、人口流出が止まってないという現状だ。そればかりか少子高齢化が進み働ける若者の数が少なくなっていることが分かった。

このような問題に対し私たちは、釜石市には東京のように豊富な魅力はあるが、さらに働ける場所や、観光地などが少ないと感じている人が多いと思い違いをしている人が多い。だから人口流出が止まらないのだと考えた。しかし、釜石市には沢山の魅力があり、例えば都会ではあまり体感することができない豊かな自然に、地元でしか味えない魚など、とても魅力のある市となっていることが分かった。

そこで私たちは、釜石市の方々に協力を依頼し、釜石市を紹介するPVを作ってはどうかと考えた。

ポスターや、インターネットでの呼びかけなど、いろいろな宣伝方法がある中で、なぜ私たちがPVを選んだかについて話していきたい。それは、子供からお年寄りまで、幅広い年代の方に理解しやすくなければ意味がないということ、人の印象に残るものでないといけないということ、忙しくても見ることが可能ということなどを考慮したときに私たち全員が納得したのが、この方法での宣伝だったからである。

また、小さい子供たちにスタンプラリーを行ってもらい、釜石市の良いところや、釜石市に怒っている現状をクイズ形式で知ってもらい、スタンプラリーを通して得たお金をふるさと納税の資金の足しとし、被災地の復興や、過疎化問題などに役立てる方法を考えた。

私たちが初めは釜石市の現状を何も知らなかった。しかし、釜石市の方が講演会を開き語ってくれたからこそ現状を知ることができ、こうして釜石市のためとなるよう行動を起こすことができた。だから私たちが、今回作ったPVで釜石市の現状を知り、釜石市のために何かしたい！釜石市に行ってみたい！と思ってもらえると嬉しい。

そして、将来、このような社会問題に貢献したいと思ってくれる子供を増やしたいと考える。

そして、釜石市の魅力に気づき住んでみたいと思う人の増加を図り、ふるさと納税を活用し産業、経済の弱体化の状況から抜け出すことを将来の目標とする。

## 〈問題解決に向けて 1〉

PVを制作、公開して釜石について認知してもらおうという、『認知度アップ』のために必要なものとは何であるか。言い換えれば、『いかにして印象に残るPVを作るか』ということである。それはズバリ、頭から離れない強いイメージを視聴者に植え付けることだ。

専門的な言葉で言うところの、フリークエンシーというものである。その広告が視聴者に何回視聴されたかをしめす数値のことだが、一般によく言われる『スリーヒッツセオリー』から、最低3回は認知のために視聴してもらう必要があると考えられる。

また、心理学的視点から考えるに、『MBA心理戦術101』（著：グロービス）から、「3の法則」というものがある。人間という生き物は、理由を3つ並べられると、不思議と相手の話に納得してしまう性質がある。この法則からも分かる通り、3という数字は重要であることが分かるだろう

これらを踏まえて、強いイメージを3回以上視聴者に与えることができるPV制作に取り組むことにした。

## 〈PV制作過程〉

※釜石市の方より頂いた写真である。



## 提起①：問題点となる風景

(仲見世通りのシャッター街) なんでも揃うコンビニと逆に、商店街にあるお店に興味のない若者により、お店の経営が困難になってしまった。

## 提起②の1：荒らされる田んぼ



(農村での鹿問題)タヌキやハクビシン、アナグマもよく荒らす。

## 提起②の2：食べられる農作物



(野生動物による食害) 人の目が少なくなることで、動物たちが田畑に入り、雑食の動物による被害が大きい。

## 提起③：釜石の伝統芸能の衰退



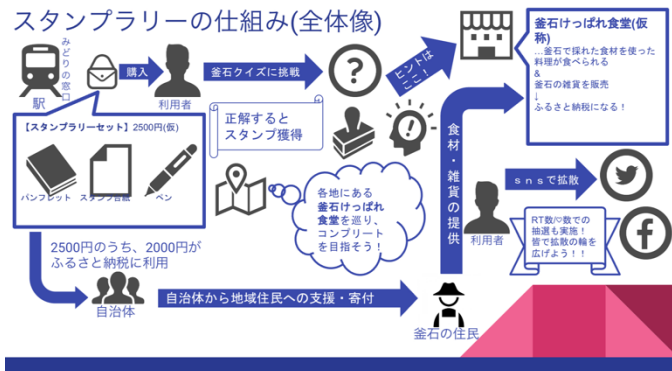
(2015年の釜石虎舞祭)後継者不足で踊り手が年々少なくなっている。

これらはあくまで一部だが、このような写真を交えて、現実味を帯びさせると共に、印象に残るPVを制作している。

## 〈問題解決に向けて 2〉

ふるさと納税の仕組みの一つとして、『スタンプラリーでふるさと納税をしよう』という案が挙がったのだが、お金の融通が発生してしまうこと、必要な人材が多いこと、高校生が手に負えるような企画ではない事についての懸念など、様々な 이슈があった。

しかし、将来的に活用できるプランの土台として、今回は実践できなかった計画を紹介することにする。



私たちはふるさと納税を活用し、上の図のようなことを考えた。まず、スタンプラリーを東京都の駅内においてもらい、スタンプラリーの台紙や、ペンパンフレットなどを2500円くらいで購入してもらい、そのうちの2000円をふるさと納税に利用できないか考えた。そして、釜石市のクイズを出し、正解するとスタンプをもらえる仕組みにする。そのスタンプを店においてもらい、そこに釜石市の商品などを置き、買ってもらった金額の何パーセントかをふるさと納税として利用することを計画した。しかしこれらの案は、先ほども述べた通り私たちで、できる範囲を超えていたこと、人材や、金銭、時間などの関係から、断念した。

### 〈展望〉

PV を作るにあたってこのプロジェクトは釜石市について知ってもらい、ふるさと納税を利用して釜石市活性化に貢献してもらうことが目標であった。

これからはグローバル化社会が進んでおり、日本に多くの外国人が訪れているのでそこに着目し海外向けのPVを制作し同じようにSNS、TwitterやYouTube、Instagramなどで世界に発信することを目標にする。

### 〈SDGs との関連性〉



釜石市は経済の弱体化が著しかったが、PV などを通して釜石市の魅力を伝えふるさと納税を使ってもらい少しでも釜石市の経済発達に貢献する。



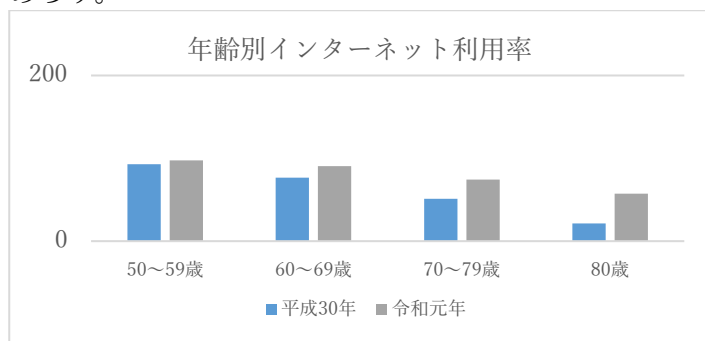
動物の田畑を荒らす被害や、商業活動に虎舞などの伝統文化の衰退は、人口減少、特に若者の減少が原因なので PV で人を釜石市に呼び込むことで防ぐことができる。



人が寄り付かなくなってしまったことにより、シャッター街になった商店街などの回復を図る。具体的には、PV で人を呼び込むことで防止できる。

### 〈今後の課題〉

PV の案については、どれだけの人に見てもらえるかどうか、主なターゲットは子供から大人、高齢者の人にも伝わりやすかつ広がりやすいPVを作成。グラフからわかるように、インターネット利用率が上がってさらに幅広く様々な人たちに知ってもらえるであろう。



だが、今年現地に行って素材の写真や動画、地元の方からのお話を聞けず、元々高校生が作れる域が狭い上に、高齢者と若者のどちらにも効くPVを制作とるとかなり困難であった。

また、ふるさと納税の案において、検討しきれなかったイシューとして、駅でどれほどの人数がスタンプラリーをやってくれるかという具体的な数字のデータの収集ということだ。あくまでも上で示した金額は仮であるので、妥当な価格設定について審議する必要があった。

また、高校生が金銭の融通に責任が持てないということで、協力を仰ぐ必要もあった。今後のためにも、この案は修正、或いは関係者に知見を仰ぎたいと考えている。

### 〈Passione について〉

私たち高校生5人は、学校での総合学習で課題研究に取り組んだ。この課題研究の手法を学び、役割分担をしてメンバーで得意なことを活かして活動に取り組んだ。さまざまな壁にぶつかって、一緒に悩みながら進める中で、分からないなりにやり抜く事や自分で知らないことを知ろうとする姿勢を身につける事ができたと思っている。特に、今回のようなふるさとに対する意識、少子高齢化といったタイムリーな事象について、関連する社会問題や教科書にも載っていないような知識も多く身についた。全てが新鮮で貴重な経験となったと思う。SAGE JAPANの参加も初めてで、慣れない作業の方が圧倒的に多い中でもここまでついて来てくれたメンバーの皆に感謝すると共に、今後の自分達の課題研究にも生かしていきたいと思っている。